科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	文化人類学各論Ⅰ Topics in Cultural Anthropology I	担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 風間 計博		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	火3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

文化人類学は、西欧近代が文化的他者と接触し、文化的他者を支配するなかで歴史的に形成されてきた学問である。文化人類学の現代性を考えるうえで、学問のたどってきた歴史的経緯を振り返る必要がある。

本講義では、文化人類学の成立期に関わる西欧近代と非西欧の文化的他者との接触のあり方を概観し、植民地主義の台頭と人類学の関係について考える。さらに、植民地期の周辺部や都市におけるエスニシティ（文化的差異や他者性に基づく自己認識）の形成プロセスを追い、現代における先住民やディアスポラ（故郷から離散した人々およびその子孫）のおかれた状況を紹介する。そして、他者との接触による文化の創造や抵抗、共生のあり方について考察したい。

[到達目標]

文化人類学の歴史的展開を理解することを目指す。現代世界において生起する諸事象について、受講生自らが人類学的に考察できる思考法を養うことを目標とする。

[授業計画と内容]

以下の項目につき、１～２回の授業を行う。

１．グローバル化時代の人類学
　１-１．人類学の時代区分
　１-２．人類学と現実批判
　１-３．グロ－バル化と〈帝国〉論

２．植民地主義と人類学
　２-１．閉鎖系としての社会・文化
　２-２．他者表象と自己表象
　２-３．接触による創造と抵抗

３．越境と共生
　３-１．儀礼の生み出す帰属の二重性
　３-２．ジェンダーと排除
　３-３．すれ違う共生のあり方

４．排除と強制移住
　４-１．都市に居住する先住民
　４-２．強制移住の民族誌
　４-３．現代世界における混淆と分離

５．総括―変転する現代世界と人間

文化人類学各論Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

文化人類学各論Ⅰ(2)

[履修要件]

人類学関連の基礎科目（文化人類学Ⅰ・Ⅱ、生態人類学Ⅰ・Ⅱ）を履修済みであるか、併せて履修することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席状況等30%）および小試験（70%）による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業後は、ノートを見直すのみならず、授業中に提示した文献を読み込んで、思考を深める。自ら思考する姿勢が求められる。

[その他（オフィスアワー等）]

講義室に収容可能な人数を上限として、受講者数を制限する。希望者が制限を越えた場合には、KULASISによりランダムに選抜する。